



No.156
2008年2月

公共図書館の開館 相次ぐ

県内において、この3年間に市町立図書館が新たに3館誕生しました。各地域に誕生した図書館を写真で紹介します。



平成18年3月5日開館
南島原市原城図書館
開館時蔵書数約6万1千冊



平成18年10月1日開館
対馬市立つしま図書館
開館時蔵書数約5万6千冊



平成20年1月5日開館
長崎市立図書館
開館時蔵書数約32万冊

(もくじ)

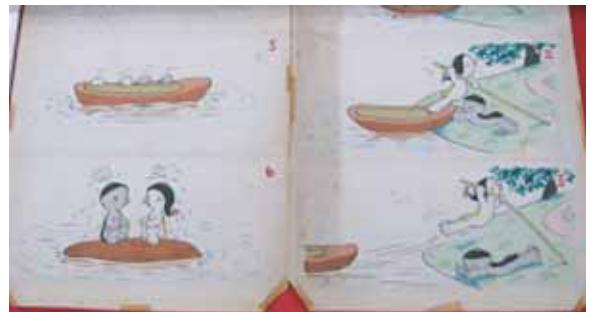
- ◎ 公共図書館の開館 相次ぐ P 1
- ◎ 「長崎の絵本作家展・漫画家展」開催中 気軽にご参加ください 図書館講座 P 2
- ◎ 統計で見る公共図書館（2）県立図書館 P 3
- ◎ 新規収集資料の紹介 日本の郵便の歴史を振り返る資料 P 4
文学に描かれたふるさと（5）
- ◎ 平成19年度 長崎県読書活動優良表彰団体のご紹介 P 5
- ◎ 郷土資料の貸出を始めました!! 困ってます! 図書館の悩み 行事案内 P 6



「長崎の絵本作家展・漫画家展」開催中

～郷土資料展示室にて3月30日(日)まで～

なつかしい童画あり、一世を風靡したあの漫画あり、そして現在活躍中の作家。
本県出身・在住の十人の絵本作家・漫画家にスポットをあて、その作品を紹介しています。
作品はそれぞれ個性豊かで、見る人の目を楽しませています。
刊本のほか貴重な原画や直筆の自画像、色紙など多数展示していますので、ぜひご覧ください。



黒崎義介コーナー

左:「一寸法師」(原画)

右:「おむすびころりん」(複製)

黒崎義介 平戸市出身。

童画の第一人者としてたくさんの作品を手がけた。



今回の展示のために描いていただいた自画像。誰のものが見てのお楽しみ!

清水崑原画

「なかよしかつぱのふうちゃんたあちゃん」

清水崑 長崎市出身。

かつぱの絵で知られ、昭和30~40年代黄桜酒造のCMにその絵が使用され、人気を博した。

〈ほかに紹介している作家〉

太田 大八

国際的に活躍

長年にわたり多くの賞を受賞

山本 おさむ

障害者の問題を漫画で描く

代表作「どんぐりの家」

長谷川 集平

文学・音楽など多彩な表現活動

堀田 かつひこ

代表作「オバタリアン」

蛭子 能収

独特的の画風

タレントとしても活躍

西平 あかね

代表作「おばけかぞくのいちにち」

草場 道輝

スポーツ青春漫画で人気

代表作「ファンタジスタ」

本間 ちひろ

若手児童文学者

イラストレーターとしても活躍

気軽にご参加ください 図書館講座

当館では、県立長崎図書館講座を年3回実施しています。うち2回は文学、1回は他のジャンルから講師をお招きします。

平成19年度は「吉村昭文学と長崎」「長崎の詩と詩人たち」「花を売らずに夢を売る」のテーマで開催しました。

入場無料、申し込みも不要ですので、気軽にご参加ください。

●平成20年度 県立長崎図書館講座(予定)

第1回	平成20年 6月7日(土) テーマ 「白石一郎を語る～親友と息子の対話～」 講師 伊藤昭六氏(元長崎県教育長)、白石一文氏(作家、白石一郎氏長男)
第2回	平成20年 9月6日(土) テーマ 「長崎を書く 長崎で書く」 講師 田中俊廣氏(活水女子大学教授)、青来有一氏(芥川賞受賞作家)
第3回	平成20年11月1日(土) テーマ 「美を求めて～版画の魅力・橋口五葉の世界～」 講師 小崎侃氏(版画家)、山本直希氏(山本美術館館長)

統計で見る公共図書館（2）

県立図書館の現状

長崎県立図書館の在り方懇話会の「答申」から

県立図書館については、資料の貸出冊数や資料相談(レファレンス)などのサービス面では全国の平均を上回っているが、専任職員が少なく司書有資格者も充分でない。

また、施設については、狭隘化・老朽化等の問題もあり資料の開架(冊数)や資料の保存及び駐車場の不足があるなど、業務の推進にとって大きな障害となっている。

○県立図書館の専任職員数及び司書有資格者数(平成17年度)

専任職員数			司書有資格者数(専任職員：人)		
本県(人)	全国順位(位)	全国平均(人)	本県(人)	全国順位(位)	全国平均(人)
22	41	38	3	45	22.7

○資料貸出冊数及びレファレンス件数(平成17年度)

資料貸出冊数			レファレンス件数		
本県(万冊)	全国順位(位)	全国平均(万冊)	本県(万件)	全国順位(位)	全国平均(万件)
52.6	12	38.1	3.9	6	2.6

(1)市町立図書館活動に対する支援

全国と比較して、市町立図書館(室)への資料貸出や資料相談(レファレンス)は多いが、図書館未設置町や離島地区などの遠隔地域への貸出冊数が少ないなど地域により偏りが見られる。

また、資料が十分ではないなどにより市町立図書館(室)からの貸出要請に応じきれていない状況がある。

○市町立図書館への協力貸出、協力レファレンス、ウォンテッド数

協力貸出冊数			協力レファレンス件数	ウォンテッド件数(件)
本県(冊)	全国順位(位)	全国平均(冊)	本県(件)	ウォンテッド件数(件)
26,884	10	21,803	30,108	4,705

※「協力貸出」………… 市町立図書館などへの資料貸出

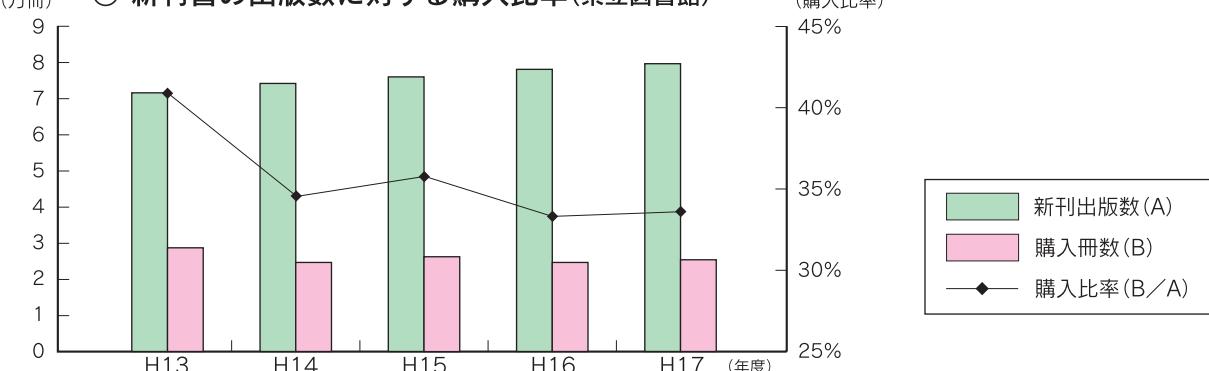
※「協力レファレンス」… 市町立図書館への資料相談・案内

※「ウォンテッド」……… 市町立図書館からの資料貸出要請に対し、県立図書館に所蔵が無いもので県内の公共図書館に所蔵がないか調査し回答するもの

(2)資料・情報の収集

資料(情報)の収集は、図書館活動の基盤であることから、資料費の確保は重要である。県立図書館では、年間約7千円の予算を確保し資料を購入しているが、全国で出版される新刊書の数に対する購入比率は年々低下の傾向にある。

○新刊書の出版数に対する購入比率(県立図書館)



～日本の郵便の歴史を振り返る資料～

—新規収集資料の紹介—

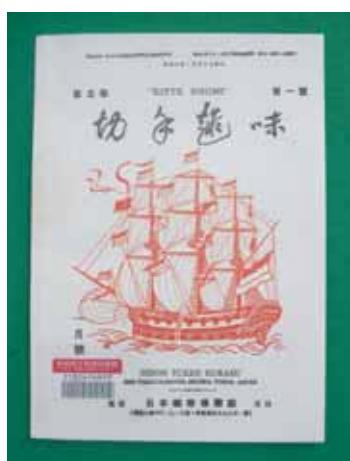
1871年に日本の近代郵便制度が生まれて136年、2007年10月に日本郵政グループが発足し、日本の郵便事業が民営化されました。

みなさんは「郵便」と言われて、一番に何を思い浮かべますか？おそらく、はがきや切手が思い浮かんだのではないでしょうか？

今回、個人の方から「郵便」に関する貴重な資料をご寄贈していただきましたので紹介します。

資料には、歴史的、美術的に、非常に興味深い絵はがきなどがあります。また、切手、消印に関する資料や1969年以降の郵便番号案内簿という珍しいものも多数含まれております。

資料の中には、戦火をくぐりぬけてきたものや、国立国会図書館にすら所蔵されていないものがあり、これらの寄贈資料から、戦前からの郵便事情を知ることができます。



この資料は昭和7年に刊行された雑誌です。

日本の郵便事情はもちろん、世界各国の郵便に関する記述があります。例えば、アメリカの記念切手についての記述があります。

これらは郵便だけではなく、様々な国の歴史も知ることができる貴重な資料にもなっています。

(切手趣味 1932年1月号:切手趣味社)



左記資料の中には、当時の年賀状に関する記述や図版が掲載されています。

古くから残る「年賀状」という習慣をこれからも大切にしていきたいものです。

3頁 趣味の新年状色々(其二)

[その他寄贈資料例]

- ・明治郵便局名録
- ・戦前の国立公園切手
- ・発行切手入門
- ・現行消印ハンドブック
- ・日本の占領切手
- ・広告スタンプ集
- ・手彫切手入門
- etc…

文学に描かれたふるさと〈5〉

「対馬は全島面積の九割が山である。府中の城下町も東西を山々に囲まれている。もっとも港に近いのは飯盛山で、その山脈の西が十六丈五尺の断崖の立龜岩だ。府中の港頭に屹立するこの岩の頂きに翌朝から市五郎が朝な夕なと姿を現わすようになった。高いところに佇んで風の動きをよんでいるのだ。

この季節の対馬海峡の主風は南風だ。しかし常にそうだとは限らない。風向きは日ごとに変化する。とつぜん北東風が吹いて大時化に海が荒れたり、朝鮮へ渡るには逆風の北西風がやってきたりする。」

(「海峡の使者」白石一郎著 1989年 文藝春秋刊)

派手好みの対馬藩主は、六月十五日の八幡社の祇園会御能に朝鮮から氷塊を取り寄せさせる。氷がとけぬよう短期間で運び、決まった日の決まった時間に藩主のもとへ届けるのは至難の業だが、命令とあらば悪天候も風浪も関係ない。御船方の日高市五郎は、命がけで海峡を渡る。

対馬を舞台としたこの「海峡の使者」の作者 白石一郎は学生時代を佐世保で過ごした作家で、長崎を舞台にした作品も多く、やはり対馬を舞台とした「海狼伝」で第97回直木賞を受賞しています。



平成19年度

長崎県読書活動優良表彰団体のご紹介

「たのしいお話を、子どもたちへ」 おはなし宅配便(江迎町)

絵本の読み聞かせとお話を活動の中心とするボランティアグループ「おはなし宅配便」が発足したのは平成14年、この9月に満6年を迎えます。

子どもたちに絵本やお話の楽しさを届けよう、子どもたちが読書の世界に少しでも近づいてほしい、といった思いや願いをこめて活動を始めました。

図書館を基盤にしたグループではないため、こちらから保育所などへ売り込み営業(?)を行い、徐々に活動の場を広げていきました。活動の場所としては、町内の保育所、小学校、高齢者福祉施設等が中心ですが、近隣の市町や遠くは福岡市、雲仙市等お呼びがあればどこへでも出向いていくことにしています。活動回数は年間300回超となりますので、12名の会員がフル操



業状態であり、今後は会員数の拡大が課題となっています。

グループ活動のもう一つの柱は、研修活動です。子どもたちに少しでもよいものを届けることを目指して「絵本とおはなしを楽しむ会」を毎月開催しています。近隣市町の方にも門戸を広げているので、4月で66回を数える例会には毎月20名前後のメンバーが集い、絵本やお話を持ち寄って、和気あいあいのうちに研修と親睦を深めています。

子どもたちの笑顔や「こんどはいつくる?」といった言葉を支えにして、肩肘はらずに息長い活動を続けていきたいと思っております。



図書ボランティア みずほ なかよし会(雲仙市)

子どもたちに、本となかよしになってもらいたくて始めた図書ボランティアです。だからグループ名は「なかよし会」。

雲仙市立西郷小学校(旧瑞穂町)の図書室を美しくしようと、テーブルクロスや壁かざり、本棚の整理など地道な活動からスタートしましたが、今では「夏の夜話」を主催、「春の図書館まつり」を共催、町内に3校ある小学校の図書集会への参加・協力は毎年欠かしません。又、雲仙市内外での活動も多くなって参りました。

そんな中、瑞穂町公民館で毎月第3土曜日に行うお話と昔あそびの会「おはなしとあそぼう」と、町内の小学校へ毎週1回各教室にひとりず



つ入って行う朝の読み語りは、私たちの活動の原点だと思って大切に続けています。メンバーは仕事を持つ若いお母さんから、「毎週子どもたちに会うのが若さのひけつね」という〇〇歳のおばさままで、毎年だんだん増えていき、現在18名になりました。

当初は、「決して無理をしないで、自分にできるところを協力しよう」と、口では言っていましたが、やはりほんの少しの負荷をかけてやって来ているのでしょうか。9年目に入った今、メンバー全員じわじわと実力が付いてきたようです。それぞれの個性を發揮してのびのびやっています。これからも絵本を通して子どもたちと一緒に、楽しい事をいっぱいして行きたいと思います。

郷土資料の貸出を始めました!!

本年2月から「長崎県に関する地域資料」の個人への貸出を始めました。

郷土に関する図書や雑誌をお探しでしたら、お気軽にお尋ねください。

なお、資料の保存状態や保存・閲覧用資料など一部に貸出できない資料もあります。

詳しくは郷土課(095-826-5257)まで。

■ 地域資料とは

- ・長崎県内に関する資料(人物・事物など)
- ・長崎県出身の方やお住まいの方が書かれた資料
- ・長崎県内(県・市町・学校・企業・各種団体など)で発行された資料

※ 寄贈のお願い

地域資料を発行されたら、ぜひ県立図書館へご寄贈ください。

ご寄贈いただいた資料は、インターネット等で広く公開し県民の皆様の利用に供するとともに、永年保存し、次世代への文化継承に努めてまいります。

平成20年度行事案内 4月～6月

4月 ながさきおはなしフェスティバル in とぎつ

日 時：4月27日(日) 場 所：とぎつカナリーホール

第1部 「おはなし広場」 10:00～11:30
(対象年齢区分別の会場で読み語り・紙芝居などを実演)

第2部 「講 演」～本の秘密・本の魅力～ 13:20～15:00
講 師 長田 弘 氏 (詩人・絵本作家)

入場無料・申込不要・託児室あり

5月 県公共図書館協議会理事会・総会(26日 本館研修室)

6月 県読書グループ連絡協議会理事会・総会・文化講演会(2日 本館講堂ほか)

第1回県立長崎図書館講座(7日 本館講堂)

困ってます！図書館の悩み

本館では、お一人50冊まで22日間の貸出を行っておりますが、返却期限までに本が返却されないことがあります。予約をして次のご利用をお待ちの方があり、期限を過ぎると次の利用者にも大変迷惑をおかけすることになります。

返却時期が過ぎている本をお持ちの方には、随時、電話やハガキで返却のお願いをしておりますが、相当の期間遅れている方もあり大変困っております。返却期限までのご返却をぜひお願ひいたします。



まもなく卒業・入学・異動・転勤の季節

借りたままになっている本はありませんか？

万一、返却されていない本がありましたら直ぐにご返却をお願いします。

返却ポストへの返却も可能です。図書館の本はみんなの本です。